



2020年3月期  
第3四半期決算説明資料

2020年2月12日  
**ダイキン工業株式会社**

# ■ 第3四半期決算概要

過去最高の売上高・営業利益を更新。

空調事業は、景気が減速する中国で、市場環境の変化に対応した品揃えの強化により、現地通貨ベースで増収増益を確保したことに加え、日本・米州・欧州・アジアで販売を拡大し、増収増益となった。

化学事業は、半導体・自動車市場の減速影響が大きく、減収減益となった。

下期に入り、半導体市場の回復遅れや為替のマイナス影響の拡大、日本・米国での暖冬による需要減など、事業環境が悪化するなか、通期営業利益計画(2,850億円)の達成をめざす。

(億円)	1-3Q実績			年間計画	
	2018年度	2019年度	前年度比	2019年度	前年度比
<b>売上高</b>	18,752	<b>19,514</b>	<b>104%</b>	26,100	105%
<b>営業利益</b> (利益率)	2,138 (11.4%)	<b>2,191</b> (11.2%)	<b>102%</b>	2,850 (10.9%)	103%
<b>経常利益</b> (利益率)	2,159 (11.5%)	<b>2,240</b> (11.5%)	<b>104%</b>	2,850 (10.9%)	103%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (利益率)	1,499 (8.0%)	<b>1,480</b> (7.6%)	<b>99%</b>	1,950 (7.5%)	103%

USD/円

¥111

¥109

¥109

ユーロ/円

¥129

¥121

¥121

中国元/円

¥16.6

¥15.6

¥15.5

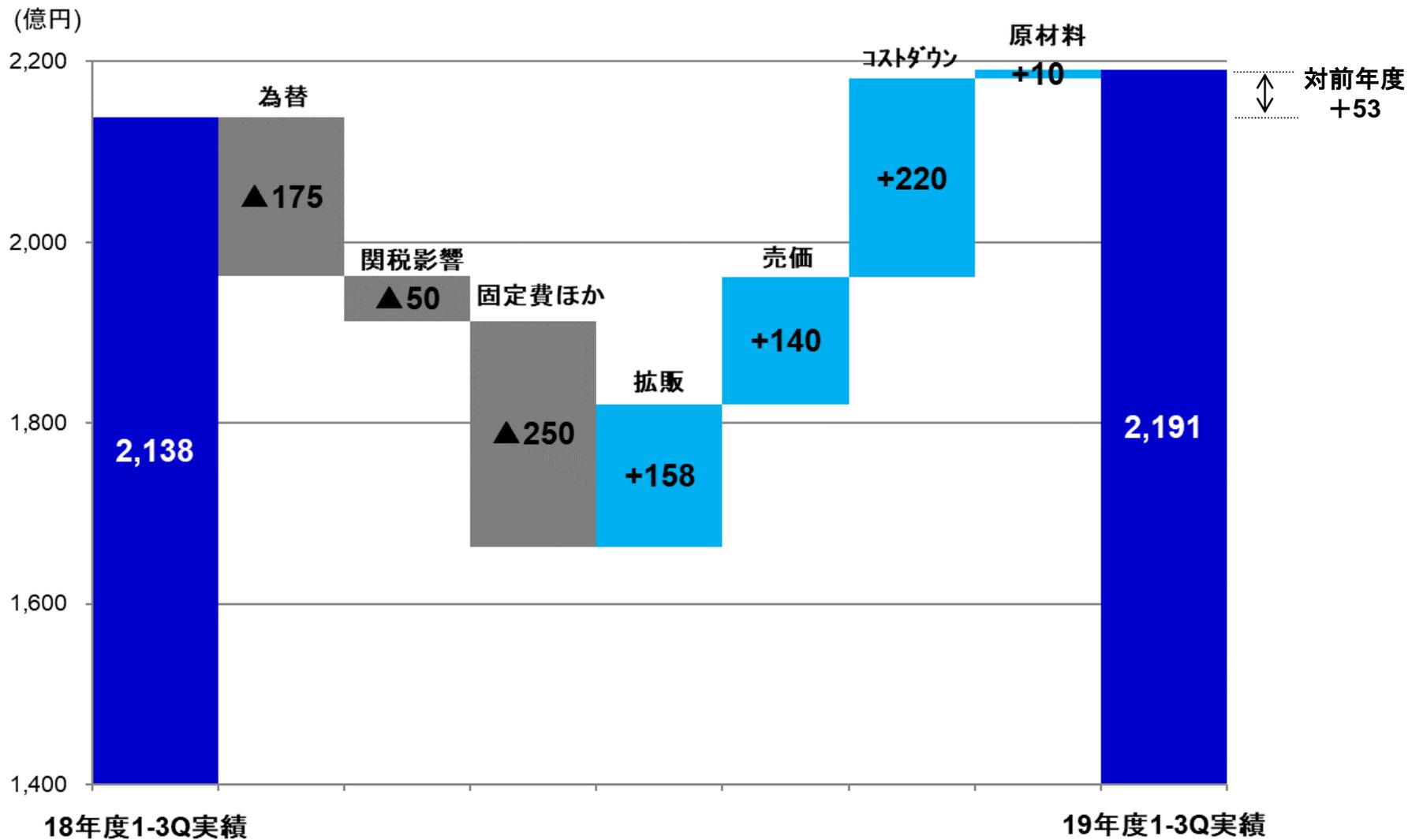
○為替影響(対前年度)

売上高 ▲610億円

営業利益 ▲175億円

(億円)		1-3Q実績			年間計画	
		2018年度	2019年度	前年度比	2019年度	前年度比
全社	売上高	18,752	19,514	104%	26,100	105%
	営業利益 (利益率)	2,138 (11.4%)	2,191 (11.2%)	102%	2,850 (10.9%)	103%
空調	売上高	16,872	17,766	105%	23,530	106%
	営業利益 (利益率)	1,854 (11.0%)	1,978 (11.1%)	107%	2,490 (10.6%)	105%
化学	売上高	1,494	1,326	89%	1,940	97%
	営業利益 (利益率)	247 (16.6%)	177 (13.3%)	72%	300 (15.5%)	92%
その他	売上高	385	422	109%	630	108%
	営業利益 (利益率)	37 (9.5%)	36 (8.6%)	99%	60 (9.5%)	99%

# ■ 営業利益増減分析



# ■ 地域別売上高の推移-空調事業

※冷凍・冷蔵機事業、フィルタ事業含む

※パーセンテージは前年度比

(億円)	2015年度1-3Q		2016年度1-3Q		2017年度1-3Q		2018年度1-3Q		2019年度1-3Q		2019年度計画	
	パーセンテージ	売上高	パーセンテージ	売上高								
日本	99%	3,077	105%	3,227	105%	3,402	107%	3,641	104%	3,797	104%	5,000
ヨーロッパ	110%	1,881	96%	1,812	118%	2,145	112%	2,399	116%	2,789	117%	3,900
中国	103%	2,701	92%	2,484	115%	2,863	102%	2,929	97%	2,834	96%	3,270
米州	116%	3,790	100%	3,805	114%	4,325	112%	4,863	108%	5,242	108%	7,000
アジア	114%	1,746	97%	1,691	109%	1,845	110%	2,033	107%	2,173	109%	3,050
オセアニア	109%	353	106%	376	146%	549	105%	579	93%	537	92%	720
中近東	117%	356	94%	334	117%	389	93%	362	93%	336	94%	500
アフリカ	110%	82	69%	56	100%	56	115%	65	88%	57	100%	90
計	108%	13,985	99%	13,784	113%	15,573	108%	16,872	105%	17,766	106%	23,530
海外売上高比		78%		77%		78%		78%		79%		79%
USドル/円		¥122		¥107		¥112		¥111		¥109		¥109
ユーロ/円		¥134		¥118		¥129		¥129		¥121		¥121
中国元/円		¥19.3		¥16.0		¥16.6		¥16.6		¥15.6		¥15.5

# ■ 地域別売上高の推移-化学事業

※パーセンテージは前年度比

(億円)	2015年度1-3Q		2016年度1-3Q		2017年度1-3Q		2018年度1-3Q		2019年度1-3Q		2019年度計画	
日本	110%	289	104%	299	114%	342	117%	400	94%	377	98%	540
米州	114%	309	89%	275	110%	302	113%	341	92%	314	98%	460
中国	101%	264	90%	238	121%	288	103%	295	92%	271	102%	370
アジア	124%	135	90%	121	131%	160	120%	192	91%	175	98%	265
ヨーロッパ	165%	177	90%	159	128%	204	124%	252	71%	178	88%	295
その他	107%	8	89%	7	137%	10	135%	13	82%	11	58%	10
計	116%	1,182	93%	1,100	119%	1,305	114%	1,494	89%	1,326	97%	1,940
海外売上高比		76%		73%		74%		73%		72%		72%
USD/円		¥122		¥107		¥112		¥111		¥109		¥109
ユーロ/円		¥134		¥118		¥129		¥129		¥121		¥121
中国元/円		¥19.3		¥16.0		¥16.6		¥16.6		¥15.6		¥15.5

## 日本

住宅用の業界需要は、上期は堅調であったが、消費増税に伴う駆け込みの反動に加え、暖冬の影響もあり、前年度並みとなった。当社は、室内機内部の洗浄機能を搭載したフラグシップ機『うるさらX』やデザイン性と機能性を追求した『risora』、寒冷地向けの商品など、幅広いラインアップで需要を捉え、販売を拡大。

業務用の業界需要は、堅調な設備投資に加え、学校空調の特需もあり、前年度を上回った。当社は、『FIVE STAR ZEAS』や『machiマルチ』をはじめとする主力商品に加え、工場のような大空間でも個別制御が可能な『MULTI CUBE』などの差別化商品の販売を伸ばしたが、収益性を重視した販売戦略をとったことにより、業界の伸びを下回った。アプライドは、R32機をはじめとする高付加価値商品を拡販。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用	業界	100%
	当社	102%
業務用	業界	111%
	当社	103%
アプライド	業界	99%
	当社	101%

※アプライドは売上高ベース

## 米州

堅調な個人消費が需要を下支えするなか、販売網の拡充、商品開発の強化、サービス事業の拡大、売価効果により、売上高は前年度を上回った。

2019年11月、グッドマン社の新工場「ダイキン・テキサス・テクノロジー・パーク」への生産集約をすべて完了。生産能力の拡大と生産性向上により収益拡大をめざす。

- 住宅用ユニタリーは、自前販売店網の拡充、ディーラーの育成・支援を推進。自前販売店網での販売が堅調に推移したが、暖冬の影響もあり、販売は前年度並みにとどまった。
- ダクトレスは、住宅用市場でRAのローコストモデルの販売を拡大。VRVでは、ユーザーダイレクトの営業活動を強化。
- アプライドは、販売網強化や商品ラインアップの拡充による機器の拡販に加え、サービス事業を拡大。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用ユニタリー		101%
ダクトレス	RA/SKY	111%
	VRV	100%
アプライド		118%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン

※VRV・・・業務用マルチエアコン

※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

## 中国

米中貿易摩擦による景気減速や政府の新築住宅抑制策により、厳しい市場環境が続くなか、市場の変化に対応した品揃えの強化や地方都市での拡販を推進。原材料市況の軟化効果を取り込むとともに、固定費削減や内作化・自動化などのコストダウンに努め、現地通貨ベースで増収増益となった。

- 住宅用市場では、成長が見込める地方都市に販売資源をシフトし、独自専売店「プロショップ」を拡充。中高級住宅向け「ニューライフマルチシリーズ」に加え、一般住宅向けの商品ラインアップを拡充し、販売を伸ばした。
- 業務用市場では、大型不動産投資が減少するなか、飲食店などの店舗物件や中小物件のリニューアルといった堅調な需要へ対応に加え、成熟市場である大都市では、インターネットを活用して顧客と繋がる「インテリジェントVRV」を展開し、更新需要の獲得に努めた。
- アプライド市場では、データセンター向けなど、需要が拡大する分野での提案営業を推進。

〈市場別販売状況(現地通貨売上高ベース)〉

(前年度比)	1-3Q 実績
住宅用※	105%
業務用	97%
アプライド	104%

※住宅用マルチエアコン含む

## 欧州・中近東・アフリカ

欧州で、環境意識の高まりを捉え、高付加価値商品の販売を拡大。AHT社の新規連結効果もあり、地域全体の売上高は前年度を大きく上回った。

- 住宅用は、R32機をはじめとする高付加価値商品を拡販。フランス・ドイツでは、夏季の熱波の影響もあり、前年度に引きつづき販売が大きく伸長。
- 業務用は、欧州で、VRVの再生冷媒を使用した差別化商品や省冷媒機種を拡販。SKYでも、R32機の販売が伸長。
- 暖房事業は、ヒートポンプ式温水暖房機器の幅広い品揃えを活かし、好調な需要を捉え、シェアを拡大。フランスでは、燃焼式からの置換えを促進するインセンティブも追い風となり、販売が大きく伸長。
- アプライドは、最大市場である中東を中心に、他社に先駆けて市場投入したR32チラーを大きく拡販。
- 冷凍・冷蔵事業は、ザノッティ社およびAHT社と販売網・商品ラインアップを相互活用し、コールドチェーン全体での事業展開を推進。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用		106%
業務用	SKY	105%
	VRV	101%
暖房		128%
アプライド		119%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン  
 ※VRV・・・業務用マルチエアコン  
 ※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

## アジア・オセアニア

各国で、大都市から地方都市まで販売網を拡充。地域ニーズを捉えた差別化商品の拡販や、サービス体制の強化、営業人員の拡充に取り組み、売上高は前年度を上回った。

特にインドでは、地方都市での販売網の構築の加速に加え、地域別のニーズに細やかに対応した商品展開により、販売を大きく伸ばした。

- 住宅用は、インドでの拡販に加え、タイ・ベトナム・インドネシアを中心に冷専インバータ機など差別化商品の販売を拡大。
- 業務用は、販売店の育成に注力するとともに、用途に合わせた提案営業を推進し、スペックイン活動を強化。インド・マレーシア・タイ・ベトナムを中心に販売を拡大。
- アプライドは、製品供給力の強化や販売店の育成により、販売を大きく伸ばした。

### ■ 売上高上位国の対前年同期比(現地通貨ベース)

オーストラリア:100% インド:114% ベトナム:107%  
タイ:116% マレーシア:106% インドネシア:116%

### 〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用		109%
業務用	SKY	107%
	VRV	112%
アプライド		125%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン  
※VRV・・・業務用マルチエアコン  
※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

半導体・自動車市場を中心とした需要減の影響や、欧州での冷媒ガスの販売減により、売上高は前年度を大幅に下回った。今後の需要回復に向け、情報通信分野や電気自動車向けなど用途開発を推進した。

- フルオロカーボンガスは、欧州で、前年度の旺盛な需要の反動による流通在庫滞留の影響が長引き、販売が減少。
- 樹脂・ゴム
  - ーフッ素樹脂は、世界的な半導体市場の需要減の影響により、販売が減少。
  - ーフッ素ゴムは、自動車関連分野の需要が減速した影響で、販売が減少。
- 化成品は、半導体市場の需要減によりエッチング剤の販売が減少。撥水撥油剤は、中国や米国で需要が伸びず販売が減少。表面防汚コーティング剤『オプツール』でも販売が減少。

〈製品別販売状況(売上高ベース)〉

(前年度比)	1-3Q 実績
全フッ素化学品	89%
ガス	69%
樹脂・ゴム	92%
化成品ほか	93%

売上高は前年度を大幅に下回った。

エアフィルタは、主力の米国で、供給遅れの影響により販売が減少。欧州・中国では競争激化により販売が減少。日本でも半導体関連の需要減少の影響を受けた。

P&I※では、厳しい事業環境のなか、アフターサービス事業へのリソースのシフトなど、事業体質の改善に努めた。

※P&I・・・ガスタービン、大規模プラント等の業務用集塵システム

(億円)	2018年度		2019年度	
	1-3Q実績	年間実績	1-3Q実績	年間計画
設備投資	585	872	889	1,050
減価償却費	540	723	710	800
研究開発費	477	652	502	700



# ダイキン工業株式会社

## 予測に関する注意事項

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその確実性・完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い致します。本資料の見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。